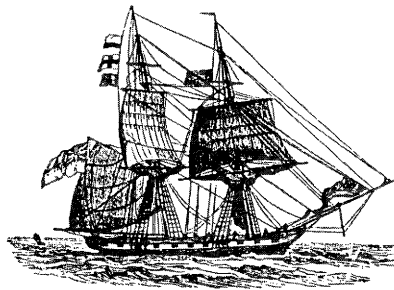


開発と環境シリーズ

7

# 地球環境と アジア環境法

野村好弘・作本直行-編



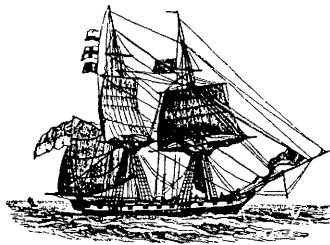
アジア経済研究所

開発と環境シリーズ

7

# 地球環境と アジア環境法

野村好弘・作本直行-編



アジア経済研究所

## 地球環境とアジア環境法

のむら よしひろ  
野村 好弘 (東京都立大学法学部教授)

やなぎ けんいちろう  
柳 憲一郎 (明海大学不動産学部教授)

いそざき ひろし  
磯崎 博司 (岩手大学人文社会科学部教授)

いわま とおる  
岩間 徹 (西南学院大学法学部教授)

いのうえ ひでのり  
井上 秀典 (明星大学経済学部教授)

おが のしょういち  
小賀野晶一 (秋田大学教育学部教授)

さくもと なおゆき  
作本 直行 (アジア経済研究所経済協力研究部主任研究員)

いまいずみ しんや  
今泉 慎也 (アジア経済研究所経済協力研究部)

すずき ただのり  
鈴木 忠徳 (国際協力事業団東北タイ造林普及計画チーフ・  
アドバイザー兼森林経営情報担当専門家)

—執筆順—

地球環境とアジア環境法

開発と環境シリーズ 7

1996年4月25日発行©

定価 (本体3010円+税)

2002年3月28日第二刷発行

編者 野村好弘・作本直行

発行所 日本貿易振興会 アジア経済研究所

千葉市美浜区若葉3-2-2 〒261-8545

研究支援部

電話 043-299-9735 (販売)

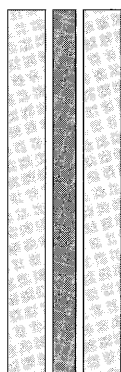
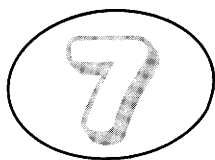
FAX 043-299-9736 (販売)

E-mail: syuppan@ide.go.jp

<http://www.ide.go.jp>

印刷所 株式会社 スギタ

ISBN4-258-24007-9 C3032



開発と環境シリーズ



定価（本体3010円＋税）

ISBN4-258-24007-9 C3032

## 目 次

はしがき

### 第 1 部 国際環境法と発展途上国

第 1 章 ポスト UNCED とアジェンダ 21 の課題 .....	野村好弘	5
Ⅰ UNCED 前の国際協力の歩み .....		5
1. 1970 年代	5	
2. 1980 年代	7	
Ⅱ UNCED の開催と成果 .....		11
1. リオ宣言	11	
2. アジェンダ 21	12	
Ⅲ UNCED 以後の日本と開発途上国 .....		14
1. 中央公害対策審議会・自然環境保全審議会答申「国際環境協力のあり方について」	14	
2. 閣議決定「政府開発援助大綱」	16	
3. 環境基本法	17	
4. アジェンダ 21 行動計画	22	
5. 地方公共団体のアジェンダ 21 行動計画	24	
6. 経団連地球環境憲章	26	

第 2 章 国際金融機関と環境協力 .....	柳 憲一郎	29
— アジア開発銀行・世界銀行にみる環境配慮の 仕組みと実際 —		

はじめに .....		29
Ⅰ アジア開発銀行の環境配慮の取組み .....		31
1. アジア開発銀行の環境政策	31	

2. アジア開発銀行の援助手法	32
Ⅱ 世銀における環境配慮の取組み	41
1. 世銀の最近の環境政策	43
2. 貸付プロジェクトに対する世銀の監理と評価	44
3. 環境関連貸付	48
4. 世銀の環境改善手法	49
Ⅲ MDBにおける環境配慮の検討	53
1. プロジェクト・サイクルにおける環境配慮	53
2. MDBへの対応戦略	56
結びにかえて	58
第3章 国際環境法の展開と課題	磯崎博司 63
Ⅰ 環境に関する主な条約の概要	63
1. 汚染の防止	63
2. 気候系の維持	70
3. 生物多様性の保全と資源の利用	71
4. 自然地域の保全	74
Ⅱ 環境に関する条約の要素	78
1. 被害救済のための制度	78
2. 未然防止のための制度	79
3. 新たな展開	80
4. 今後の課題	82
第4章 地球環境条約と開発途上国	岩間 徹 85
はじめに	85
Ⅰ 地球環境問題の定義	86
Ⅱ 途上国の利益に対する特別考慮措置の検討	87
1. 砂漠化防止条約	87

2. 国際熱帯木材協定	88
3. ウィーン条約およびモントリオール議定書	89
4. 国連気候変動枠組み条約	90
5. 野生生物種およびその生息地の保護に関する条約	97
6. バーゼル条約	99
まとめ	100
第5章 有害廃棄物の国境を越える移動をめぐる 国際法の展開	井上秀典…103
はじめに	103
I バーゼル条約の原則	104
II バーゼル条約採択以後の有害廃棄物規制の動向	106
1. 国連総会	106
2. EC	106
3. OECD	107
4. UNEP	107
5. ESCAP	109
III バーゼル条約締約国会議	110
1. 第1回締約国会議	110
2. 第2回締約国会議	111
3. 第3回締約国会議	113
IV 責任および賠償に関する議定書	114
1. 責任の性質	114
2. 責任主体の範囲	114
3. 損害の範囲	115
4. 越境移動の始期および終期	115
5. 有害廃棄物の競合	116
6. 補償基金	116



7. 国際責任	116
V 国境を越える汚染の責任と国際法の一般原則	117
1. 国際法の一般原則	117
2. 国境を越える汚染に関する訴訟	121
3. ソフト・ロー (Soft Law) からのアプローチ	123
4. 国際基金によるアプローチ	124
5. 仲裁制度	124
おわりに	125
第6章 債務自然スワップの意義と課題	磯崎博司…131
I 債務と自然保護とのスワップ	131
1. ボリビアでのDNS	131
2. 自然保護事業の運営	132
3. 問題点	132
II DNSの概略	133
1. DNSの背景	133
2. DNSの仕組み	135
3. DNSの役割	136
4. 問題点と対策	137
III 新たな状況と展開	139
1. 状況の変化	139
2. 今後のDNS	141

## 第2部 アジア地域の環境法

第7章 途上国の環境保全のための理念と法的枠組み	小賀野晶一…149
——地球環境権の確立に向けて——	
I 問題の提起	149

Ⅱ 持続的開発と環境権 .....	151
1. 持続的開発の考え方の展開 .....	151
2. 地球環境保全に関する国際条約等の展開 .....	156
3. 一国環境権から地球環境権へ .....	157
Ⅲ 国・地域別検討 .....	157
1. 韓 国 .....	158
2. 中 国 .....	158
3. フィリピン .....	160
Ⅳ 日本法からの示唆 .....	160
1. 環境基本法の制定 .....	160
2. 環境権論の展開 .....	162
まとめ .....	165
 第8章 アジア諸国の環境影響評価制度の課題と 地域協力の可能性 .....	作本直行…169
はじめに .....	169
Ⅰ アジア諸国の環境アセス制度をめぐる国際的な展開 .....	171
1. アジア諸国における環境アセス制度導入のための国際的な支援 .....	171
2. 日本における環境アセス制度の導入と環境基本法 .....	175
Ⅱ アジア諸国の環境アセス制度の内容 .....	177
1. 中 国 .....	178
2. 韓 国 .....	181
3. フィリピン .....	184
4. マレーシア .....	186
5. シンガポール .....	188
6. タ イ .....	189
7. インドネシア .....	192

Ⅲ 各国環境アセス制度の共通課題 ……………	194
——比較の立場から——	
1. 制定根拠	195
2. 環境アセスの対象事業範囲	195
3. 環境アセスの制度的、手続き的な流れ	197
4. アジア諸国の環境アセスに関わる問題点について	199
Ⅳ 環境アセス制度の地域的発展のための制約要因と可能性 ……………	204
1. アジア地域での環境アセス制度の三つの発展方向	205
2. ASEAN地域における環境アセス制度の調和・統一化	206
3. 制約要因	208
おわりに ……………	209
第9章 メコン河流域開発に関する新たな法的枠組み ……………今泉慎也…	219
はじめに ……………	219
Ⅰ 95年協定締結の背景 ……………	221
1. 従来のメコン委員会の組織と役割	221
2. メコン河流域開発と加盟国間の利害関係	224
Ⅱ メコン協力の新たな枠組み ……………	227
1. 95年協定の構成と適用範囲	227
2. メコン河委員会の組織	227
3. 水資源の利用・開発に関する原則と手続き	233
おわりに ……………	240
第10章 熱帯林の減少と森林管理 ……………鈴木忠徳…	243
はじめに ……………	243
Ⅰ 半島部マレーシアの森林管理 ……………	244
1. 森林資源の状況	246
2. 森林資源利用と管理方法の歴史	246

3. 半島部マレーシアの森林管理	252
Ⅱ 世界の森林の現況	256
1. 熱帯林の現況	256
2. 温帯地域の森林の現況	258
Ⅲ 森林の利用と保護に関する世界的枠組み	260
1. 国際熱帯木材協定	261
2. 熱帯林行動計画	264
3. 森林原則声明	265
4. アジェンダ21	265
5. 国際林業研究センター	266
おわりに	266
第11章 アジア地域の湿地保全と法	柳 憲一郎 273
はじめに	273
Ⅰ アジアにおける湿地の利用と消耗の現状	274
Ⅱ アジア各国における湿地の現状	275
1. タイの湿地保全と管理政策	276
2. インドネシア	278
3. マレーシア	285
Ⅲ アジアの湿地保全戦略	287
おわりに	288